

Mランドニュース Vol. 94

丹波ささ山校 平成27年1月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

《今月の言葉》

「一日の睡眠時間は三～四時間。
やりたいことが山ほどあるんです」

広島・地域を美しくする会

梶田 克生氏 (70歳)

株式会社マルコシ 会長 木原 伸雄 監修

「souji」より抜粋

ごあいさつ



新年あけましておめでと
うございます

昨年の十二月三十一日の一日と、今年の一月一日の一日は、同じ一日と言っても全く違う一日である…。三十一日の一日は昨年の後始末をつける一日であり、一月一日の一日は全く新しい私たちがあなたの人生をつくってゆく一日です。

人生二度なし。森信三先生の眞言にあるように、運命に流されてゆく人生では無く因果応報の人生、自分で種をまき自分で耕し因縁をつくる因果応報の人生、自分たちでできる最高のいいことをしてその因縁をこの世に残して、私たちが自慢できる世の中をつくってゆきましょう。千人フェスタも大成功でした。時を守り場を浄め礼を正す、これを当たり前のことだと云えるよう徹底してやりましょう。



命を一所懸今を！

人間にとって一番大事なことは自立です。いつまでも益田校のあとをつけてゆくのでは未来はありません。矢張りささ山校にとっても一番は自立です。十年一昔と云います。ささ山校も紆余曲折ありましたが、ついに自分の目指す高みを見据えるところまで来たようです。この時点で大きな一歩を踏み出して、どこ迄高みに居つづけるかどうかで決まります。今日からの一日は、ささ山教習所の新しい歴史をつくる自立できるかできないかを試される大きな大きな一歩になってゆきます。

ここまでこられたのは全社員の皆様と関連する皆様、これをお読みになる縁に結ばれた皆様のお蔭であります。

謹んで厚く御礼申し上げます。新年のごあいさつといたします。

一月一日 小河 二郎

麗春



専務取締役 井階 正義

新しい年を迎え、皆様おめでとございます。

平素はMランドへの格別のご高配を賜っておりますこと、心から感謝しお礼を申し上げます。そして、今年も皆様にあって良い年でありませうようにと祈念いたします。

十年ひと昔と言われますが、篠山自動車教習所はMランドとなり、本年五月で丸十年となります。平成十七年五月二十七日に初めて小河二郎オーナーに出会い、「挨拶をしましょう。掃除をしましょう。ハガキを書きましよう」といわれました。当時オーナーに、「誰でも出来ることを皆さんにお願いしています」と言われたことが今も印象に残っております。

そして、これこそが我々にとって本元である、「やわらぎの心」を実践する三種の神器となっております。

お陰様でMランドも多くのお客様にお越しいただき、社員数も三倍に増え、ホームも新棟「レゾナンス」を加え三棟となりました。そして、目標である集客二千名へ向けて進んでいます。

しかしながら、まだまだ私も含め力不足を感じています。

サナギがチョウになることを「蛻変」と言います。我々がもう一度「蛻変」をしない限り、いくら良い環境とマーケットがあっても、歴史を変えることも、成長もありません。

今、自分の目の前に起きている事は、すべて自分の選択から生まれています。今の自分は一〇〇%、自分の選択により創られるのです。自分を変えてください。他人に依存せず、期待せず、自分に期待し、自分が変わります。生まれた時期も、親も、国も、そして、会社も、選んだのは自分自身です。

アインシュタインの言葉に「何を測定するかを決定するのは、その前提にある理論である」という言葉がありま



高城山(丹波富士)から昇る日の出

す。理論が分かれば対策は立つということです。しかし、「理論」は天才でないとして、それは出来ませんが、「原理」は不変です。「理論」を「原理」に置き換えて、その「原理」を明確にすれば答えをだせるし、行動もできます。

Mランドはやわらぎの心を基にして、三種の神器を磨いていく。そして、自らの存在価値の再形成、関係性の再構築を図り、創造性と主体性の創発をおこないます。すなわち、一人ひとりが当事者意識を持つ自分、責任をとる自分に成ります。

さあ、強い企業文化と社風を創り、これからも人々に喜ばれるMランド、強いMランドを目指しましょう。

行って、見て、触ってきました！

十二月十三日、「そうじの力」研修でご指導をいただいている、小早祥一郎氏によるセミナー&見学会が福井県鯖江市の有限会社フライン様で開催され、当社より私が出席させていただきまし

た。小早氏が携わっておられる多くの企業の中で、成果を上げておられる会社とお聞きしていました。しかし、どんなに頑張っても、どこか抜けているところがあると思ひ、早速誰も目が届かないようなサッシの溝を覗いてみました。ところが、隅々まで塵ひとつなく新品のように磨かれたサッシを覗いて、半信半疑の思ひは打ち消されました。その後の現場見学会で印象に残ったのが、随所に観られる創意工夫、それにも増して社員の皆さんが楽しんで仕事に取り組んでおられる姿でした。印刷業なので容器や棚、機械や床はインクでベトベトというのが普通でしょうが、汚れを探そうにも一切見当たらないのです。また、楽しんでいるから

こそ思ひもよらないアイデアが生まれ、改善がとどまることなく日々繰り返し返されていると感じました。



隅々までピッカピカ！

フライン様も以前からこのような社風ではなく、三年の月日をかけて現在に至ったので、現在のMランドはフライン様の当初の姿であるように思います。

小早氏は「やる気さえあれば、大抵のことはできる」と言われます。一人でするのではなく、全員で計画を立て、楽しんでやることの大切さをこの研修会で学びました。ありがとうございます。ライダーチーム 長谷川 泰之

立志

Mランドの教習コースは杜のごとく木々に囲まれ、こころに呼びかけることばや石像が点在しています。

この杜のコースに、このたび

森信三先生の「人生二度なし」のことばを石に刻み、置かせていただきました。

(株)タニサケ発行の冊子「人生二度なし」の文中に森先生は、「この世に人間として生まれあわせた私たちは、この二度とない人生をどのように生きるべきか。二度と繰り返すことのできない人生だからこそ、一日一日を、真剣に、有意義に生きぬき、精いっぱい充実したものとしなければなりません。めいめいの人が、自分の生命(いのち)をいっばいの花を咲かせる努力をしなければなりません」といわれました。

また、この著者である村上信幸さんは、森先生の「念々死を覚悟してはじめて真の生となる」ということばを「きょうの、この一日で自分の命が終わるのだとしたら、自分は生涯の最後に何をしたいと思うのか、どのように一日を終わるべきか、いや、今、この瞬間にも息の絶えるようなことがあるとすれば、どうしてもやりたいこと、やらねばならぬことは何か、それくらいのですまじい覚悟でこの人生を生きねばならぬ。いつもいつもこのことを念頭に

において真剣な努力をするときに、はじめてほんものの生き方ができるのだ」と説いておられます。ただ時間が過ぎていくだけの生き方をしている私たちに、石碑のことばが「どう生きるのか、何をするのか」を問いかけてきます。

手と手をとりあつて

十二月十九日、篠山市議会において「市みんなの手話言語条例」が制定されました。Mランドでも昨年の三月から、ろうあ協会の大内和彦様より、月二回手話を教えていただいていることは以前にもご紹介しました。大内様は「今回の条例が制定されるまでの苦労を思うと本当にうれしい。兵庫県の教習所で手話に取り組んでいるのは、Mランドだけではないでしょう。これからがんばってほしい」とおっしゃいます。

大内様と臼井様には丁寧に楽しく、繰り返し教えていただいていることに感謝すると共に、手だけではなく顔の表情に思いを込めて伝

える大切さを学ばせていただいております。



いつも楽しい講習を(大内様:右)

平成二十四年の道路交通法改正で、聴覚障害者の免許取得の門戸が広がりました。いつでも、聴覚障害の方々に起こしていただいてもコミュニケーションできる教習所でありたい。また、手話を発信できる教習所になればとても嬉しいです。今後、手話が市民の生活にとけこみ、コミュニケーションがしぜんにとれる街になることを願うばかりです。

手話研修担当 近藤 沙代

『掃除に学ぶ会』のご案内

私たちと一緒にトイレを掃除しましょう。

- 1/11(日) 八上小学校 東トイレ (Am 8:00~9:00)
- 1/25(日) 篠山中学校 運動場トイレ (Am 8:00~9:00)

※参加していただける方は井本までご連絡ください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年も多くの方々にご縁をいただき、支えていただいたことに感謝申し上げます。

わたしたちは「一年の計は元旦にあり」ということは知っています。(株)タニサケ 松岡 浩会長より毎月お送りいただく「フレッシュタニサケ」に同封の、素心学塾池田 繁美塾長の「志を立て、日夜努力する」という講演資料をいただきました。その最後の一節。

一月一日の朝を大切に、しっかりと計画を立て行動することで、その一年が決まるということ。さらには、「一生の計は、勤(きん)にあり」といわれます。「勤」とは、まじめにコツコツ努力すること。志を立て、それにおかたて日夜努力することで、その人の一生は充実したものであるのです。

誰でもできる小さなことを「続ける大切さ」をあらためて感じました。今年も朝の一時三十分の掃除を続けます。(徹)